

理事就任挨拶

沖縄県医師会 理事 金城 淑乃



この度、沖縄県医師会理事を拝命いたしました琉球大学病院の金城淑乃と申します。2009年に琉球大学医学部（23期）を卒業し、現在は産婦人科医として周産期医療に携わっております。このような重責を担う機会をいただき、大変光栄であるとともに、その責任の重さを実感しております。

私が医師会活動に本格的に関わるようになったのは、2年前に沖縄県医師会女性医師部会に参加したことがきっかけです。多くの先生方との交流を通じて、医師会が果たす役割の大きさを学び、さらに令和8年4月に開催された第20回男女共同参画フォーラムでは、企画段階から携わる機会をいただき、その社会的意義を実感いたしました。

日常診療では、母体合併症や早産、胎児異常などの医学的ハイリスク妊娠に加え、社会的ハイリスクを抱える妊婦の診療にも従事しております。沖縄県は出生率が全国1位である一方で、低出生体重児の割合も高く、新生児集中治療室（NICU）は恒常的に逼迫しています。また、若年妊娠の割合が高いことに加え、子どもの貧困やパートナーからのDV、社会的孤立など、社会的ハイリスクを抱える妊婦や家庭も少なくあ

りません。さらに、離島県という地理的特性や産科・小児科・新生児科医の不足もあり、周産期医療体制には多くの課題があります。限られた医療資源の中で安全な周産期医療を維持するためには、医療のみならず行政、教育、福祉との連携強化が不可欠であると考えております。

現在、琉球大学では銘苅桂子教授を中心に、「こどもまんなかウェルビーイングセンター」において、医療・教育・福祉が連携し、子どもたちの健やかな成長を支える体制づくりに取り組んでいます。医療分野では、特定妊婦や社会的ハイリスク妊娠の早期把握と福祉・教育機関との連携、学校健診データや子どもの貧困との関連性に関する調査研究などを実施し、妊娠期から子どもの成長過程まで切れ目のない支援体制の構築を目指しています。

若輩者ではございますが、理事としての責任を真摯に受け止め、諸先輩方のご指導を仰ぎつつ、これまで培ってきた周産期医療の経験を生かし、沖縄県全体の医療の発展と県民の健康増進に貢献できるよう尽力してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

